

話題のベネズエラ「エル・システム」を解き明かす

BOOK

ベネズエラに育つ

「エル・システム」。スズキ・メソッドとの深い関係

地球の反対側の国、ベネズエラのクラシック音楽のトレーニング・システム「エル・システム」が大変な話題になっています。2008年12月に来日したシモン・ポリバル・ユース・オーケストラ・

オブ・ベネズエラの類いまれでエネルギー溢る演奏は、たった2日間だけの東京公演で、かつてない「衝撃」をもたらしました。その後のマスコミやNHK教育テレビ「芸術劇場」の公演放映などで多くの人の知るところとなりました。この本はオーケストラの礎となる音楽教育システム「エル・システム」について、さまざまな角度から解き明かしたドキュメンタリーです。

人口2700万人のベネズエラには、約400のユース・オーケストラ、児童オーケストラがあり、25万人の子どもたちが「エル・システム」に参加しています。これは、ベネズエラ元文化大臣のホセ・アントニオ・アブレウ博士が、クラシック音楽を演奏すること、貧困層の子どもたちを善良な市民に育成し、麻薬や犯罪から守り、社会の発展に寄与させることができるというプロジェクトを提唱したこと

に始まります。そのオーケストラの頂点がシモン・ポリバル・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラです。1975年に設立され、首都カラカスを拠点に活動。犯罪が多発するこの国で「音楽は社会を変える力となる」という信念のもと、多くの子どもたちを犯罪から守り、貧困層の子どもたちに夢を与える存在になっています。すでに欧米の著名な音楽祭にも数多く出演し、耳の肥えた聴衆の熱狂的な支持を得たり、世界的な指揮者、アバドやラトル、ベルリン・フィルの団員

定期的なベネズエラを訪れ、指揮や演奏指導を行なっているほどです。

この本で特に注目すべきは、「エル・システム」の土台を作ったのがスズキ・メソッドであることを紹介している点です。1979年に文化使節としてベネズエラを訪問したヴァイオリニストの小林武史さんが、ヴァイオリンを見たこともない、地方の子どもたちを鈴木先生の指導法で立派に育て上げた姿に、すでにアメリカでスズキ・メソッドが一大センセーションとなっていたことを知っていたアブレウ博士は強く感銘したのです。それ以降「エル・システム」はスズキ・メソッドをベースに独自に発展していきます。ただし、個別の演奏指導よりも、オーケストラ活動に重心を置くところが、日本との大きな違いである、著者の山田真一さんは紹介しています。

教育評論社
2,200円(税別)

